

食べ物はどこからくるんだろう

■プログラムの概要

ねらい	自分たちが普段食べている食材が世界各国で生産されていることを産地マップを作りながら理解し、食材の輸送等にかかるエネルギー消費を抑制するためにはどのような行動ができるか考えられるようにする。		
キーワード	食育、エネルギー		
対象	小学5年～中学3年		
時間	100分	実施場所	教室、屋外
使用するもの	日本地図・世界地図、マジック、筆記用具、スーパー等の広告チラシ、電卓、はさみ又はカッター、のり		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none">1. 産地当てクイズ2. 食材の産地マップづくり スーパー等の広告チラシを使って食材産地マップをつくる。3. 食材の故郷・解説 食材が世界や日本各地から集まっていることを知り、環境問題との関連を考える。4. フードマイレージ 食材の輸送に伴うエネルギー消費という観点から食材を考える。5. 話し合い・まとめ		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
10分	<p><産地当てクイズ> いくつかの食品を例に、食材がどこから来ているものかクイズ形式でたずねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「産地当てクイズ」は、資料参照
30分	<p><食材の産地マップづくり> グループで、スーパーの広告チラシに載っている食材の写真を切り抜き、食材の産地ごとに仕分ける。切り抜いた食材のチラシを日本地図や世界地図に貼り、食材産地マップをつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 広告チラシには食材の産地が載っているものを使用する。 • グループ内で各食材の担当（牛・豚肉、鶏肉、野菜、魚介類、果物など）を決めて行うとよい。
10分	<p><食材の故郷：解説> 地図から、普段私たちが食べている食材が世界各国・日本全国から集まっていることを知る。 また、同じ食材でも様々な産地から来ていることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ食材の具体的な産地をグループごとに発表してもらい、比較をする（例：牛肉など）
30分	<p><フードマイレージについて> 「フードマイレージ」についての理解・関心を深めることにより、環境に良い食材選びができるように導く。 【食材選びアクティビティ】 ① あらかじめメニューに書かれた食材の産地をチラシ（資料）の中からグループで選ぶ。 ② 選んだ食材の産地をポイント表に書き込む。 ③ グループの代表1人が黒板に張ってある表（フードマイレージ換算表）と照らし合わせて、それぞれの食材のポイントを書き込み、合計ポイントを計算する。 ④ このアクティビティはポイントが低ければ、低いほど環境にやさしくなっているということを説明する（フードマイレージの説明はしない）。 ⑤ ①～③の作業を、ポイントが低くなるように、繰り返し行い、グループ同士で競う。</p> <p><フードマイレージの解説> ポイント＝フードマイレージとして、フードマイレージの概念の説明を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 食材をあらかじめ用意した1枚のチラシ（資料）から選んでもらう。事前に各産地におけるフードマイレージのポイントを調べておく。 • アクティビティは、グループ単位でなく個人で行っても良い。 • 「食育」、「食料自給率」、「地産地消」という点に発展することもできる。
20分	<p><まとめ> 食材の運搬にも環境負荷がかかっている現状を知り、改善策を考え、発表する。</p>	

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
世界地図・日本地図	1 グループ 1 枚	
マジック	1 グループ 1 セット	
筆記用具		各自で用意
スーパーの広告チラシ	生徒・児童各自用意	実際に買い物をするときのことを想定し、いくつかのお店のチラシを用意するとよい。
電卓	生徒・児童各自用意	輸送距離の計算用
はさみ又はカッター	生徒・児童各自用意	
のり	生徒・児童各自用意	

■実施にあたって留意する点

- ・ 広告チラシは、食材の写真と産地が記載されているチラシを用意しておく。
- ・ 小学生に学習を行う場合には、フードマイレージの学習の際に産地を国内に限定して行い、児童たちが地域をイメージできるようにしてもよい。
- ・ 中学生以上に学習する場合には、個々で活動を行い、考えを深めるようにすることもできる。
- ・ 発展の学習として、食料自給率を上げるためにはどのようにしたらよいか、など自らの行動に結びつくような事後学習があるとよい。
- ・ 本プログラムに関連して、地球温暖化に関する学習「地球温暖化ってなんだろう」や「環境にやさしい消費者になろう」を行うと効果が上がる。
- ・ 産地調べ学習では、広告チラシを用いずに、直接スーパーや商店に行き、話を聞いて、産地を調べる方法もできる。その際には、学習活動の目的を話し、協力をお願いする。
- ・ また、直接スーパーや商店等で話を聞くときには、あらかじめ聞く内容を整理しておいてから聞くようにし、聞き終わったらお礼を言うように指導する。
- ・ 学習の最後に「学校給食の産地調べ」を取り入れてもよい。学校給食はほとんどが国内産の食材で作られており、環境にも配慮されていることに気付かせる。